

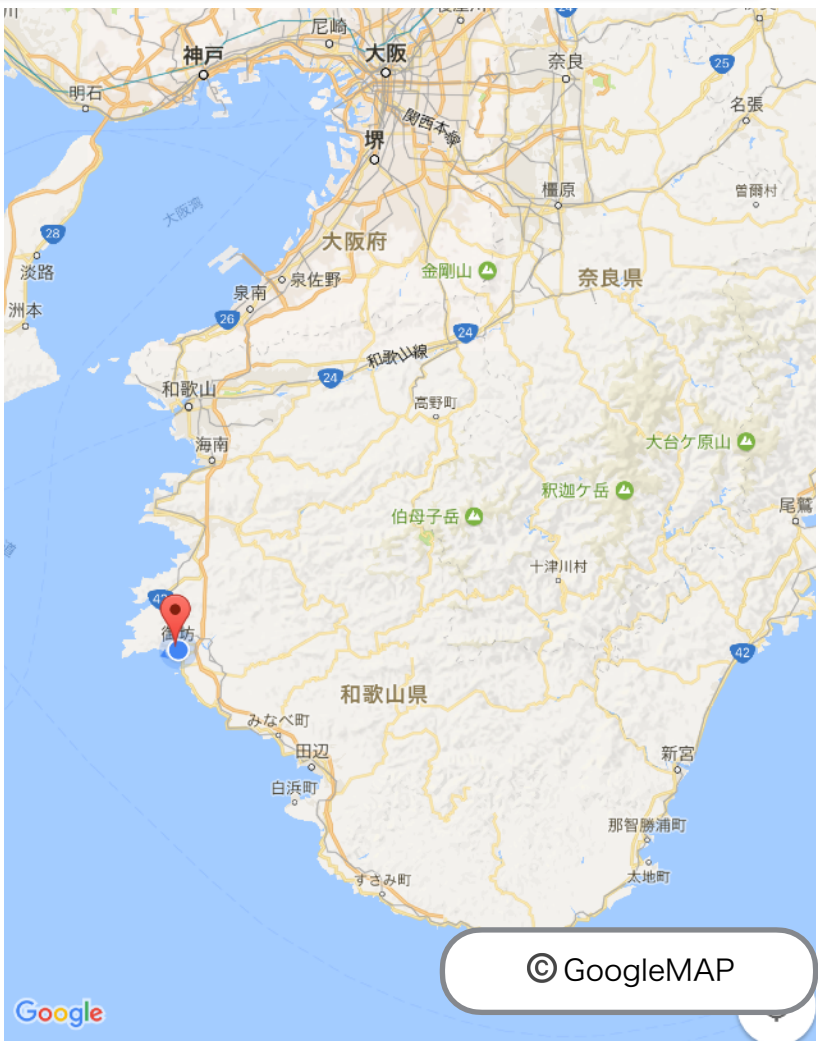
認知症の人とともに築く総活躍のまち 条例づくりを本人視点から



御坊市市民福祉部介護福祉課 谷口 泰之

御坊市について

- 紀伊半島海岸部のほぼ中央部
- 総面積：43,91km²
- 日高川を境に河北、中央、河南エリアに生活圏域
河北：地元の方と移住の方が混在。
中央：官公庁や商業施設が集中。
河南：農業や漁業が盛ん。2世帯同居が多く残る
- 昼夜間人口比率：115%



平成31年3月31日現在

総人口	65歳以上人口	高齢化率	日常生活圏域	認知症地域支援 推進員
23,397人	7,279人	31.1%	6圏域	7人
独居高齢者数	要介護認定者数 (第1号被保険者)	認知症日常生活 自立度Ⅱ以上	第7期介護保険料 基準額	地域包括支援 センター数
2,298人	1,836人	1,146人	6,520円	1（直営）

御坊市の自慢



スターチス生産量日本一



人を見たけりゃ”御坊祭”



日本のシンデレラ”宮子姫”生誕地



市民のソウルフード”せち焼き”



麻雀牌・サイコロ生産量日本一



西日本一短い鉄道”紀州鉄道”

御坊市の認知症施策に関する組織図

介護福祉課

地域包括支援センター

認知症初期
集中支援チーム

認知症地域
支援推進員

高齢福祉係

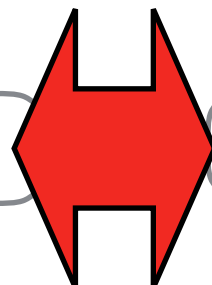
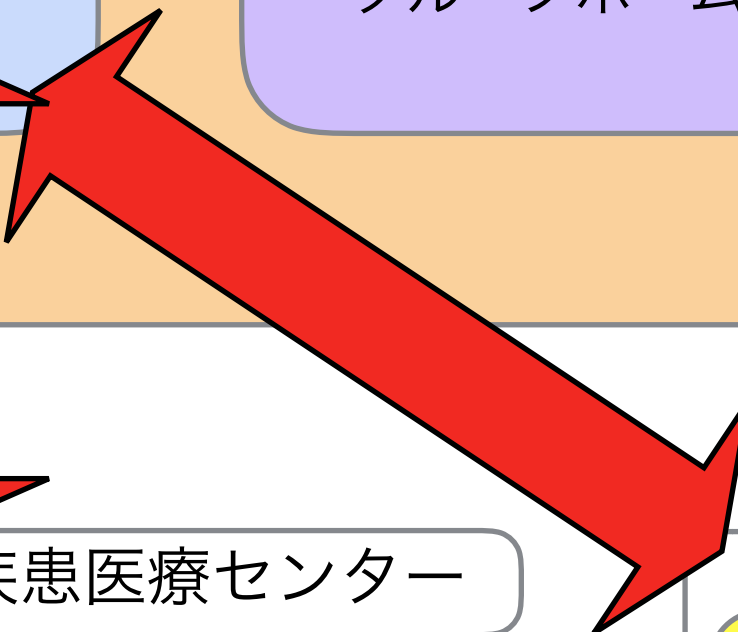
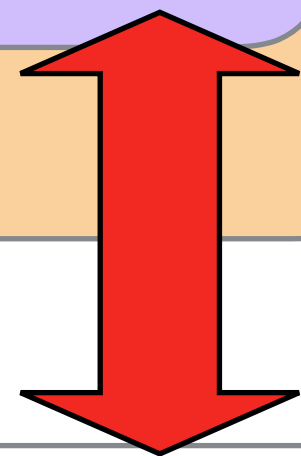
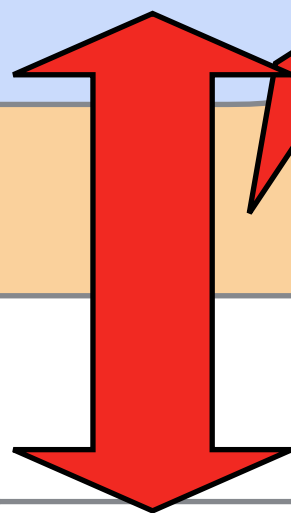
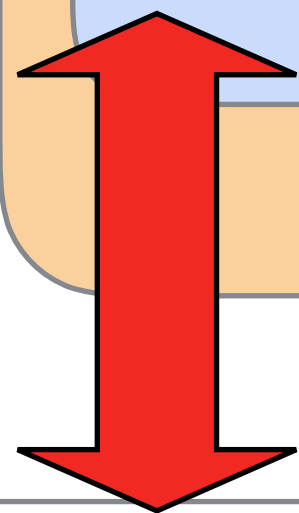
介護保険業務全般
要介護認定業務
介護保険事業計画策定
緊急通報システム
デイケアサロン
グループホーム利用助成事業

認知症サポート医

認知症疾患医療センター

在宅介護支援センター

認知症地域支援推進員



これまでの御坊市の認知症施策

認知症地域支援体制構築 等推進事業（H21～22）

- ・「認知症コーディネーター会議」発足
- ・認知症地域資源マップ
- ・高齢者安心サポート事業
- ・安心声かけ訓練
- ・キャラバン・メイト養成研修
- ・認知症連携担当者配置

市町村認知症施策総合 推進事業（H23～25）

- ・認知症地域支援推進員配置
- ・認知症疾患医療センターとの連携体制づくり
- ・キャラバン・メイト中心のまちづくり組織結成
- ・若年性認知症の方への支援（1人の関わりから）

認知症総合推進事業 （H26～）

- 御坊市認知症ケアパス作成⇒第6期介護保険事業計画に反映させる
- ・認知症初期集中支援チーム設置（H27. 10月）
- ・介護家族のつどい「ごぼうホッとサロン」開設

今までの取り組みを継続しつつ、
総合的な取り組みに再構築

H28年度～「ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト」

推進員の役割って大変じゃないの？

認知症カフェの運営？

認知症サポーター養成講座の展開？

介護と医療の連携体制づくり？

認知症ケアパス作成？

事業をこなすことで精一杯・・・

でも、**本人の思い**ってどうなの？

「私たち抜きに私たちのことを決めないで！」

行政から求められている推進員の役割

本人の声に耳を傾け、本人の視点に立ち、
本人とともにこれからの暮らしを考える。
その先に、認知症になっても自分らしく暮
らせるまちをつくるのために、多くの仲間
(本人含め) と地域づくりに取り組む。

本人視点の重視

認知症にやさしいまち
って、どんなまち？

本人たちが思う

「やさしい」は何なのか？

ある認知症の本人の言葉

「認知症の人を守る」と
いいながら、私たちは
「当たり前」と「
さえも奪われました。

住み馴れた地域で
これまでと変わらない
暮らしを

ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト

少子高齢化により人口減少が進む中、認知症の方や障害がある方でも、「総活躍分の1人」となれる社会を目指し、安心・安全に暮らせるまちづくりを5ヶ年計画で実施。（H28年度～）

企画課：プロジェクトの企画調整

○健康づくり

健康福祉課：生活習慣病予防、健康意識普及啓発、食育推進

○生きがいづくり

商工振興課：語り部育成

社会福祉協議会：シルバー人材センター機能強化

○地域づくり

介護福祉課：認知症地域支援を通じた活躍の場の創生

認知症になっても
活躍できるまちって
素敵やん！

市の責務と使命、そして理念を条例に

「さまざまな場面で本人たちが地域で活躍している。認知症にやさしいまちって何なのか？誰もがより良い暮らしができる地域をつくるという**市の責務と使命を表明するために条例をつくらう！**」



介護福祉課長

課長の熱い思い

「支援する、してあげる」なんて思い上がった行政にはならないように、**本人とともに**条例をつくるんだ！

ワーキングチーム結成

御坊市のような田舎には、研究機関や学術機関などない。有識者会議なんてできないんじゃないか？
でも、同じ思いの仲間がたくさんいる。認知症サポート医、医療機関、事業所、家族、そして本人。

認知症にやさしいまちづくり条例(仮)

作成ワーキングチーム結成

ワーキング会議メンバー

- 市内在住の本人及び家族
- 若年性認知症の本人、パートナー
- 市内の認知症サポート医
- ケアマネジャー
- 認知症対応型デイ管理者
- 病院地域医療連携室相談員
- 総務課（法制担当）
- 企画課（総活躍のまちづくりP）
- 介護福祉課（認知症地域支援推進員）



必要に応じて、日本認知症本人ワーキンググループ
等からのご参加いただく

行政内部でも横断的な連携を

ワーキングチームのメンバーには、行政の立場として介護福祉課だけではなく、総活躍のまちづくりプロジェクトの企画課、条例の法制担当の総務課の職員にも参加要請。形式的な人選（課長級等）ではなく、実際の担当者を入れる！



企画課と総務課の強い味方！！

**部署・立場を超えての連携
作成のプロセスを最初から共有**

ワーキング会議実施

6月27日、第1回目の会議を開催。それぞれが思う「認知症にやさしいまち」について意見交換。

本人から出た意見

- 「認知症の人」という見方をされるから、**失敗を恐れ、隠そうとする。失敗してもいい、そんなことを気にしなくてもいい**地域になるための条例を作りたい。
- 認知症になってもできること、少しでも役に立てることがある。**そう思って地域に出ることができる**。そういうことを伝えたい。

以後、全4回の会議を重ね、すべての会議に本人が参加。本人の意見をもとに条例の内容を検討。

地域の本人の声

各メンバーから、地域で暮らしている本人たちの声も聞いてみたいと意見。地域に出向いてヒアリング。

市が条例つくってくれるのは嬉しい。これからの暮らしに希望が持てる。認知症になっても暮らしは変わらん。認知症になることは怖くないよ。

(在宅60代男性)

認知症の人は、誰もがなりたくてなったのではないということをすべての人が理解し、尊い人格を持った人間として人権を尊重してほしい。

(在宅90代男性)

90歳過ぎたからといって見捨てないで！90年生きてきた私だからこそできることがある。条例でそういうこと書いてくれば、もっと頑張れる！

(在宅90代女性)

地域のためにできることは何でもしたい。みんなの力になりたい。でも常に周りに人がいるとしんどいので干渉し過ぎ(過剰な介護)ないでほしい。

(グループホーム70代女性)

今までこうやって（行政等が）**本人の声を聴いてくれることがなかった。**でも聴いてみると年齢に関係なく、一人ひとりが色々な思いを持っている。**こういう声を発信してくれば、他に続く本人たちも出てくると思う。**

一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ 藤田和子代表理事

「家族」について

本人の意見

- 「**本人と家族**」を併記することはどうか。
- これまで、本人と家族を並べてこられたから、それぞれを天秤にかけられ、**結局本人の思いを言えず**、家族が代弁してきた。それが**私たちの思いじゃないこともある**。
- 別に**家族をないがしろにするわけじゃない**。「家族」と明記しなくても、家族は色々やってくれるし、逆に「家族」と明記すれば負担に感じることもあると思う。
- 家族のいない人、または様々な理由で家族より「**パートナー**」の**存在の方が大事な人もいる**。だから「家族」と明記されると、その人たちは生きづらくなる。

家族の意見

- 条例の目的からすると、**家族の声が入ると違う方向に広がってしまうかもしれない**。私たちの思いも入れてほしい気持ちはあるが、ここは認知症の人1本で通したほうがいい。

認知症の人の役割

条例に「認知症の人の役割」を明記

○認知症の人は、暮らしやすいまちを築くために、**自らの希望、思い及び気づいたことを身近な人、市、関係機関等に発信する**ものとする。

○認知症の人は、地域の一員として、**自らの意思により社会参加及び社会参画**するものとする。

「私たちが、言っているんだね。なんか、
色々とやりたいことが出てくるよ！」

認知症施策推進のための協議体に**認知症の人の参加**を位置づけ。



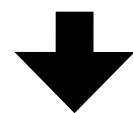
条例の詳細はQRコードからダウンロードしてください。

条例づくりを通じて

○条例のタイトルについて

これまでの意見や条例の内容から「認知症にやさしい」は違和感がある。

自分（本人）たちは守られる、支えられるだけの存在じゃない。



御坊市認知症の人とともに築く総活躍のまち条例

○条例づくりを通じての意見

日本認知症本人ワーキンググループの藤田さんから「御坊市の条例は、**私たちが目指す社会の実現が可能だと示してくれた**」

会議に参加した本人たちから「行政主導ではなく、研究者や学者たちがつくったものでもなく、**まちがいなく私たちの言葉で**つくった条例。これからは地域の一員として活躍していきたい」

将来的に「**認知症の人**」と区別しない地域、そして**この条例が必要ない地域**になればと願います。

認知症の人の役割って
どんなことなの？

ごぼうホッとサロン🔥

みんなで食事しながら語り合う



職員も入浴、風呂上がりのひととき



参加者で記念撮影



ビール飲んでひ孫とゴロ寝



「銭湯」で本人が気づき、そして活躍！

●本人

「シャンプーとか石鹸(ボディソープ)とか、どれがどれなのかわからへん。もっとわかりやすく"頭"、"体"、
みたいに書いてくれたら、間違わへんと思うよ」



その声を聞いた推進員が銭湯に伝える

●銭湯側

「実は、スタッフ間でも、お客様が容器を間違っているのを見て何か解決策がないのかと話していたのです。貴重なご意見ありがとうございます！」

郵便局に行こうと思って道に迷っている人が・・・
「こっちから見たら郵便局わからへん」



「こうなればいいな！」
本人の声から、住みやすい地域を提案していこう！

市内の郵便局長と意見交換

市内の郵便局と「高齢者等の見守り協力に関する協定」を締結していることもあり、懇談会の際に今回の事例を本人視点からの動画を見ていただきながら紹介。



郵便局側

確かにこれはわかりにくい。認知症の方だけじゃなくて、ドライバーにもデマークあるとわかりやすいね。持ち帰って検討します！

メディアも「事業者の役割」として

足跡 日本 半以 励に とし 道た

平山画伯のシルクロード作品を鑑賞

「パツと見て分かる」表示を」
郵便局との懇談会で意見交換
御坊市

御坊市介護福祉課は12日に市役所で、昨年4月に「高齢者等の見守り協力に関する協定」を締結した市内8郵便局長との懇談会を開き、今月から施行した「認知症の人とともに築く総活躍のまち条例」の概要を説明し、意見交換した。条例は「誰もが生き生きと活躍でき、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちを実現する」をめざし、市の責務として市民、関係機関と連携し、認知症の人が希望を持って自分らしく暮らし続けられるまちづくりに努めるとあり、この一例として御坊郵便局に向かっていった認知症の人が道に迷った事例を取り上げた。

認知症の人が同郵便局を訪れようと、市役所側から歩いていたが、郵便局の場所が分からず、市民文化会館の方向に向かい、迷ったとの事例を紹介。市側は「北側の外壁にはマークが表示さ

なタッチで描かれた作品にファンは多く、初日から多

で検討したい」と答えた。介護福祉課は「持ち帰って検討するとの回答をいただけて良かった。総活躍の町、認知症にやさしい町とともに築いていくため、郵便局だけでなく、さまざまな機関、団体とこういう意見交換の場を設けていきたい」とした。

述べて、郵便局側は「持ち帰っ

北側にもマークが大きく表示されていればパツと見て分かれると思う」と意見を

れているが、南側にはない。



懇談会で市内郵便局長と意見交換

スタート
講式

6開13少
手き日女2
に、日、の

道第
美展
浄

地方紙で取材をしていただき
市民にも取り組みを周知

私は九十一才になるけれど
今が一番充実している
色々なことに興味があるし
それを支えてくれる沢山の
人がいる
本当にありがたいと思う



本人の声を聞く、ということがそれほどハードルが高いことなのか？実は地域づくりにおいて、本人の声を聞くことが一番シンプルな方法なのではないか。

NHK厚生文化事業団「認知症にやさしいまち大賞」

受賞団体への表彰状を御坊市在住91歳の認知症の女性が筆耕

第百

認知症にやさしいまち大賞

ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト

西山さんから始まった地域づくり

あなた方の活動は認知症七百万人時代を
目前にした今 認知症とともに生きる
当事者とすべての人達が自らの住む町で
ともに安心してよりよく暮らしていくための
先駆的な取り組みとして選考委員から
高く評価されました

取り組みがより発展し国内全体に
広がっていく事を期待しここに表彰

します

平成三十年二月十八日

NHK厚生文化事業団

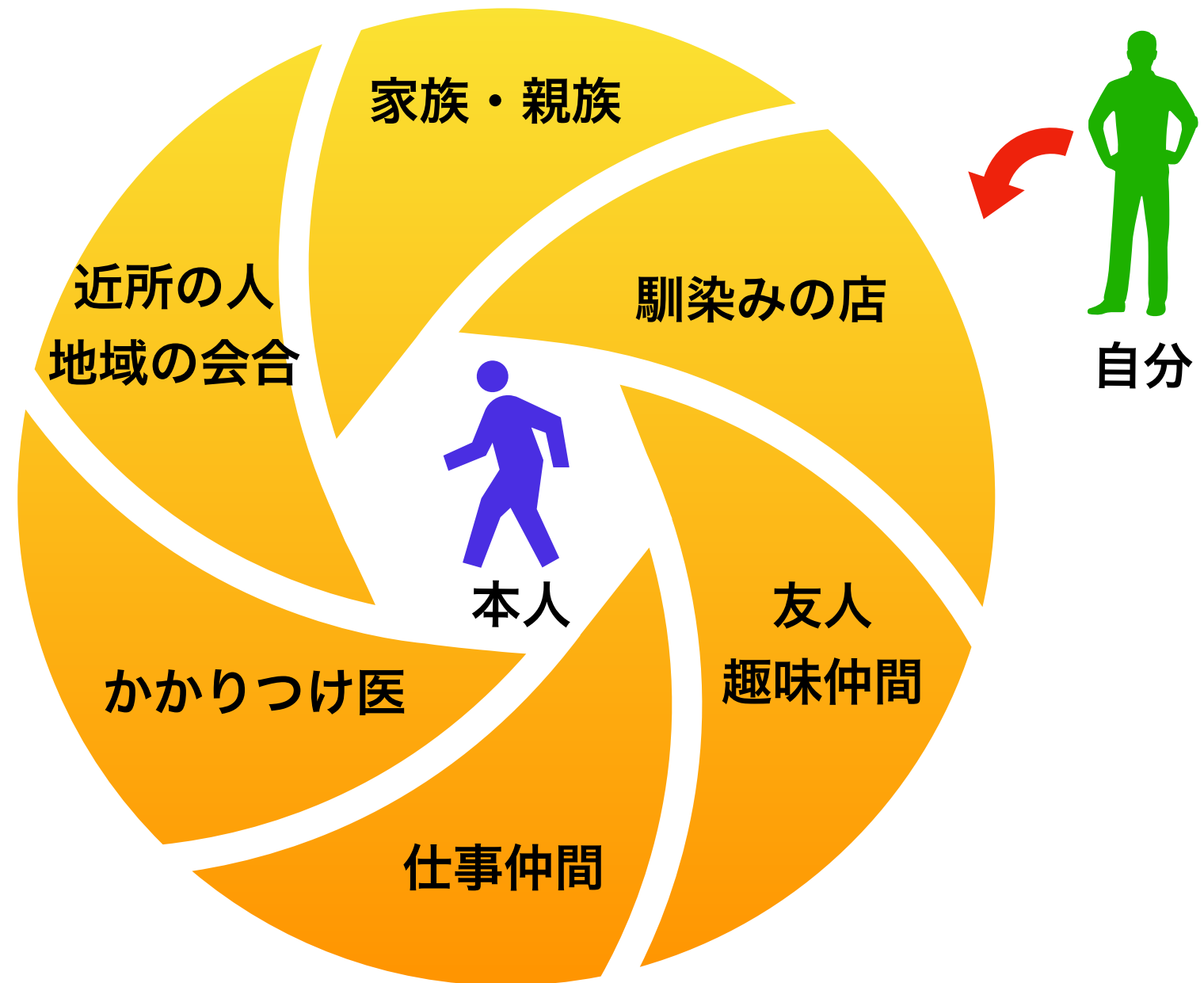
理事長 鈴木賢一



巻き込む？ 巻き込まれる！

誰が中心？

「巻き込む」という表現は、自分（推進員）が中心となって風を起こしているイメージ。「本人が中心」となって吹いている風に「巻き込まれる」ことも、ありなんじゃないかな？



「巻き込む」とうまくいかないことも・・・
「**巻き込まれる**」と、自身の（が）新たな資源に。

認知症地域支援推進員のみなさまへ

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを、**自分ごと**として考えてみましょう。でも、**自分ごとって何??**

認知症になったら・・・というより、自分がこれから、住み慣れたまちでどういう暮らしを送っていききたいか。

そのために、**ひと足先に認知症になった方々の声を聴く。**

for??

with!!

「認知症の人**に**」ではなく、「認知症の人**と**」何ができるか。
まずは1人でいいから、その人から始まる繋がりを大事に。

仲間とともに、認知症になっても、希望を持ち、誰もが活躍できる地域をつくっていきましょう！

最後にオマケ

地域づくりって、
意外なことから
キッカケに・・・

やってほしい・・・

よりも

やりたい！

と思える地域づくりがいい！

